地質ニュース576号，66－68頁，2002年8月
Chishitsu News no.576, p.66－68, August, 2002

知ってますか？ あなたの町の地質
－近畿の地質図展－

「近畿の地質図展」開催事務局[1)]

何年か前の工業技術院（当時）研究所一般公開の際に開催された「最新地質図発表会」のアンケートの回答で，「このような地図（地質図）があることを知らなかった」というコメントに出会いました．地形図にくらべると，たしかに地質図というのは一般の方にはなじみが少ないとは思っていましたが，一般公開に訪れた見学者の方（主として地質標本館を訪れた本当に一般の方々）から口々に，地質図というものを初めて見たと言われると，これは本当に何とかしなくてはならないという思いが強くなりました．

地質調査総合センターでは，これまでにも全国各地で，その地域の地質について地元の皆さんに紹介する地域地質情報展という催しを行ってきています．これは毎年，日本地質学会の年会の開催地，開催期間にあわせて行っており，その地域の地質の解説，産出する鉱物資源，地下水や火山，活断層の解説等々，盛り沢山の内容の試資料展示と，比較的若い，というか小学生くらいの子供向けの体験・実習（化石のレプリカ作りは人気があります）を含めたイベントです．この催しは私たちにとりましては規模の大きいイベントで，準備や実行に時間・人手・予算がかかります．そこでもっと小回りの効く催しとして考えたのが「地質図展」でした．国土地理院が全国各地で行っている「地図展」の二番煎じのようなものですが，私たちの地質図についての広報の取り組みは随分遅れているという自覚がありますから，進んだ企画はどんどんまねをしていこうという考えがありました．これが私たちにとって初めての試みとしての「地質図展」企画のスタートです．

会場は，大阪市立自然史博物館の特別展示室．大阪には，産総研の関西センターがあり，そこには旧地質調査所の大阪地域地質センターを前身とする，関西地質調査連携研究体があります．つくばの研究ユニット，関連部署と関西地質調査連携研究体とが共同し，かつ自然史博物館の地学系学芸員の皆さんのご協力もいただき，産総研地質調査総合センターと大阪市立自然史博物館との共催という形で近畿地域の地質図展を開催する運びとなりました．日程は，博物館が毎年地学団体研究会大

第1表　地質図って何？（地質図の展示内容）．

1. 100万分の1日本地質図の展示
2. 地質図の歴史
   貴重な明治27年発行の40万分の1予察地質図近畿の展示．
3. さまざまな地質図類
   各地の5万分の1地質図幅を用いて，土木・建築，防災，資源開発等，様々な分野での利用例を紹介．
4. 地質図の読み方
   地質図の読み方を簡単に説明．
5. 近畿の地質図
   1) 近畿地方の20万分の1地質図幅「京都及大阪」，「和歌山」「田辺」によって近畿地方の地質を概観．
   2) 丹波高地－播但地域の5万分の1地質図．
   3) 大阪湾周辺数値地質図10万分の1地質図．
   4) 大阪・奈良地域の5万分の1地質図．
   5) あなたの家はどこですか？ 会場の床に，大阪から名古屋までの5万分の1地質図幅を拡大して張り合わせたもの．
6. 地質汚染図
   ヒ素や水銀，カドミウムなどの有害元素による土壌汚染の様子を示した地図．
7. 活断層図
   1) 50万の1活構造図「京都」
      近畿圏及び中京圏を中心とした範囲で，活断層，地震の分布や地盤の構造などを表現したもの．
   2) 活断層ストリップマップ
      活断層の正確な位置や地質の情報を，断層に平行な細長い地形図に示したもの．
8. 100万分の1重力異常図（近畿地方）
   近畿地方の重力異常（ブーゲー異常）図の展示．
9. 50万分の1鉱物資源図
   中部及び近畿地方の代表的な314鉱床を選別し，表示・記載．

1) 尾崎正紀（地），川畑　晶（情），河村幸男（情），酒井　彰（地），宮地良典（地），谷田部信郎（標），湯浅真人（情），吉田朋弘（情）：
地：地球科学情報研究部門，情：地質調査情報部，標：地質標本館（開催当時の所属）

キーワード：地質図展，近畿，大阪市立自然史博物館，5万分の1地質図幅，体験コーナー，地質図類販売

第2表 やってみよう! 体験コーナー.

1. ペットボトルを使った地盤の液状化実験.
2. やってみよう! 化石レプリカ作り.
3. 鳴り砂.

阪支部と共催している市民向け講演会にあわせて，2月16，17日に決定しました.

地質図展と銘打ったイベントの開催は初めてでしたので，とにかく地質図の宣伝をすること，さらにこれまでの地質情報展の経験から体験コーナーで人を集めること，その2つを頭において展示コーナーと体験コーナーの設計をして行きました．それぞれのコーナーの内容は第1，2表の通りです.

今回の地質図展の展示では，近畿地方の5万分の1地質図を床一面に貼りつけました．これが話のきっかけになって，来場者と説明員の話が弾んだように思えました．これまでの地域地質情報展での経験では，説明に参加された研究員の皆さんは自分からお客さんに話しかけることが苦手で，せっかくお客さんがいても無視したようなかっこうになることも見受けられたのですが，今回は入場された方に床の地質図を示して「どこから来られましたか」という話しかけから始めて，周囲に展示された地質図類の説明に話が拡がって行きました．自分が住んでいる地域の地質という，身近なところできっかけを作り，関心を高めていくという方法が大変効果的でした.

来場者の皆さんからの質問で多かったのは活断層と地盤の安定性のことでした．自分は○○市に住んでいるのだが，活断層は大丈夫か，あるいは今○×市に住んでいて引っ越そうと思っているが，どこならお薦めかというような具合でした．これらの質問については，地元大阪の関西地質調査連携研究体所属の研究員が，それぞれに関係する地質図を使って丁寧に説明し，地質図を使えば何がわかるかということを解説できたと思います.

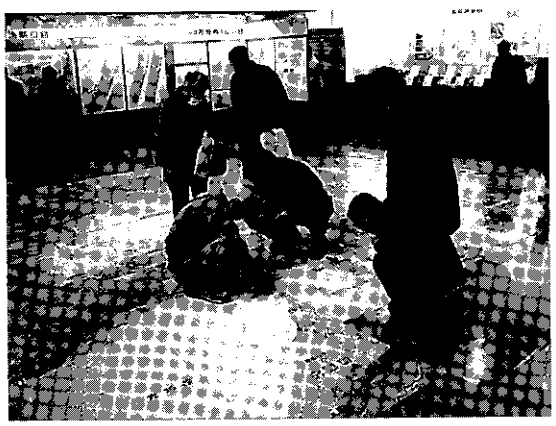

写真1 床面に展開した5万分の1近畿地方地質図.

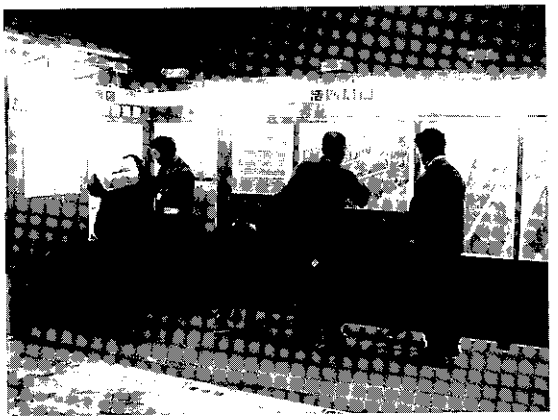

写真2 主題図の展示と説明風景.

地質図展そのものへの来場者数をカウントしませんでしたが，博物館の入館者数は16日(土)が294名，17日(日)が638名の合計932名で，通常の土曜日と日曜日の入館者数の1.5倍だったそうです．この他に博物館友の会の方は入館者数に数えられていませんが，約150名来られていたようです．用意した600枚程度の会場案内リーフレットが無くなってしまったので，博物館入館者のうちの多くの方が地質図展の会場にも来られたと思われます．また，昨秋，金沢市で開催した北陸地質情報展でもお見かけした，リュックを背負い，背筋をのばした，年配の女性がいらしたので，思わず声をかけてしまいました．わざわざ東京からこの地質図展を見に来られたとのこと．昨日は和歌山へ，そして明日は秩父へ，やはりこういった自然科学関係の集まりに参加されるために足を運ばれるとのことでした.

レプリカ作りの参加者は，2日間でのべ人数277名に達しました．アンケートの内訳は，幼稚園以下62，小学校低学年85，高学年46，中学生8，大学生8，一般62(無回答あり)となっていて，ほとんどは近畿圏からの参加でした．アンケートの設問「どのようにしてこのイベントを知ったか？」への回答を見ますと，ポスター37，友の会22，ホームページ20，知人から12，その他143となっていました.

写真3　体験コーナーの一つ鳴り砂の実習.

写真4　地質図類販売.

大阪市立自然史博物館には，多くの博物館がそうであるように博物館友の会という組織があります．そのネットワークでの地質図展の宣伝は大変効果があったように思います．また，並行して行われた市民向けの地球科学講演会を共催された地学団体研究会大阪支部による連絡も大きかったと思います．この講演会には280名もの参加がありました．もちろん，何も知らずに博物館に来られた方が地質図展にも足をのばして下さったということもあったようですが，事前の広報及び日頃の情報発信の重要性を実感しました．持ちつ持たれつというのも変ですが，博物館との共催からは相乗効果を実感しました．

地質図展の会場では近畿地域の地質図類を中心に販売活動を行いました．独立行政法人となり，自分達で研究成果物を販売できるようになったため，昨年度から様々なイベントの機会をとらえて地質図の販売を行ってきました．今回は2日間で合計84部（金額にして20万円近い）の売り上げがありました．内訳は5万分の1地質図幅27部，20万分の1地質図幅15部，数値地質図（CD-ROM版）28部，活構造図・構造図12部が主だったところです．地球科学関係の学会開催にあわせて販売したり，全国地質調査業協会連合会の技術フォーラムの場を借りて地質図の販売を行ったりしておりますが，ユーザーの方から地質図に対するご意見を直接伺える大変よい機会になっています．

地質図展を，本年は8月2-4日に札幌市で開催する予定です．今後，日本各地を，その地域の地質図をもって回って行く予定でいます．その節は，どうぞお立ち寄り下さいますようお願いいたします．

謝辞：「近畿の地質図展」開催に際しましては，大阪市立自然史博物館（那須孝悌館長）には共催いただくとともに，川端清司氏を始めとする学芸員の皆様のご協力をいただきました．厚くお礼申し上げます．

Working group of Geologic Map Exhibition (2002)：Geologic Map Exhibition of KINKI District.

＜受付：2002年6月15日＞